

カリキュラム区分		2カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	419	3年	前期	臨床検査学科	必修	臨床化学実習 Practice in Clinical Chemistry	45	1
担当教員								
高田 智世	矢野 弘子							
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	○ ② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	○ ③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	○ ④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	○ ⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
臨床化学検査の基礎的事項について、基本的器具・機器の取扱い方を身につけ、測定条件による影響、生化学自動分析装置を使用した測定法を学び、正確な検査結果を得るための分析法を修得する。更に、臨床化学検査で重要な検査項目について得られたデータの解析、検査結果の評価法について理解し、正確な診断のための検査結果を疾患と関連づけて考えることができるようになる。								
到達目標（授業目標）								
1 基本的な器具の使用法、試薬の取扱いができる。								
2 正確さの評価法と共存物質の影響について考察できる。								
3 正しい検査結果を得るための検体の前処理法について説明でき実践できる。								
4 測定原理の違いによる検査結果の違いが理解できる。								
5 酵素活性測定法の特徴を理解し実践できる。								
6 臨床酵素の測定法の特徴を理解し実践できる。								
7 糖、蛋白、脂質の分析法の特徴を理解し、実践できる。								
8 腎機能検査について分析法の特徴を理解し、実践できる。								
9 臨床化学検査の臨床的意義について説明できる。								
回	授業計画（項目・内容と方法・担当者）							
1回	オリエンテーション：実習の進め方、基本的な器具の使用法、試薬の取扱い方法等（E-study） 精度管理演習：検査結果のデータ処理について演習を行う（E-study）							
2回	血糖の測定①：正確さの評価（添加回収試験、共存物質の影響）について学ぶ－試薬準備							
3回	血糖の測定②：正確さの評価（添加回収試験、共存物質の影響）について学ぶ－分析、検査結果の考察と臨床的意義							

4回	無機リンの測定①：検体の前処理法（徐タンパク）について学ぶ－試薬準備
5回	無機リンの測定②：検体の前処理法（徐タンパク）について学ぶ－分析、結果の考察と臨床的意義
6回	尿素窒素の測定①：試薬盲検、検体盲検について学ぶ－試薬準備
7回	尿素窒素の測定②：試薬盲検、検体盲検について学ぶ－分析
8回	尿素窒素の測定③：試薬盲検、検体盲検について学ぶ－結果の考察と臨床的意義
9回	脂質の測定①：検体の前処理（測定物質の選択）について学ぶ－試薬準備
10回	脂質の測定②：検体の前処理（測定物質の選択）について学ぶ－分析
11回	脂質の測定③：検体の前処理（測定物質の選択）について学ぶ－結果の考察と臨床的意義
12回	血清蛋白の測定①：セルロースアセテート膜電気泳動法と総蛋白定量法について学ぶ－試薬準備
13回	血清蛋白の測定②：セルロースアセテート膜電気泳動法と総蛋白定量法について学ぶ－分析
14回	血清蛋白の測定③：セルロースアセテート膜電気泳動法と総蛋白定量法について学ぶ－結果の考察と臨床的意義
15回	ALTの測定①：臨床酵素測定法による検査結果の違いと自動分析装置の特徴について学ぶ－試薬準備
16回	ALTの測定②：臨床酵素測定法による検査結果の違いと自動分析装置の特徴について学ぶ－分析
17回	ALTの測定③：臨床酵素測定法による検査結果の違いと自動分析装置の特徴について学ぶ－結果の考察と臨床的意義
18回	クレアチニン測定①：腎機能の評価法について学ぶ－試薬準備
19回	クレアチニン測定②：腎機能の評価法について学ぶ－分析
20回	クレアチニン測定③：腎機能の評価法について学ぶ－結果の考察と臨床的意義
21回	ALPの測定①：臨床酵素測定法における緩衝液による反応性の違いについて学ぶ－試薬準備
22回	ALPの測定②：臨床酵素測定法における緩衝液による反応性の違いについて学ぶ－分析
23回	ALPの測定③：臨床酵素測定法における緩衝液による反応性の違いについて学ぶ－結果の考察と臨床的意義
24回	
25回	
26回	
27回	
28回	
29回	
30回	

成績評価方法及び基準

試験50%、レポート40%、実習に対する取り組みの積極性10%。トータル60点以上を合格とする。

教科書 浦山修ほか「最新臨床検査学講座 臨床化学検査学」（医歯薬出版）

参考図書等 必要に応じて別途プリント配布や本の紹介をする。

授業時間外の学習について（授業準備のための指示）

実習ノートを作成して必ず事前予習をしてください。予習の際、生化学実習や臨床化学Ⅰ・Ⅱの復習をしておくとう理解が進みます。また、レポートをまとめる際に講義で学んだ関連事項も見直し臨床的意義も理解を深めてください。

関連科目

前科目	417	臨床化学Ⅰ	418	臨床化学Ⅱ	402	生化学	403	生化学実習		
後科目	447	医学検査診断学Ⅰ								

実務家教員

臨床検査技師（医療機関）	高田 智世								

備考

臨床検査技師国家試験で出題数が多い内容を中心に実習を組んでいます。時間割等により、実習内容、実習の順番を変更することがあります。